

# 顎関節脱臼に対する頬骨突起形成術に関する考察

## — Leclerc と Dautrey による手術法について —

金沢医科大学 顎口腔外科学講座 1  
 北海道医療大学 歯学部 生体機能・病態学系 組織再建口腔外科学分野 2  
 鶴見大学 歯学部 口腔顎顔面放射線・画像診断学講座 3

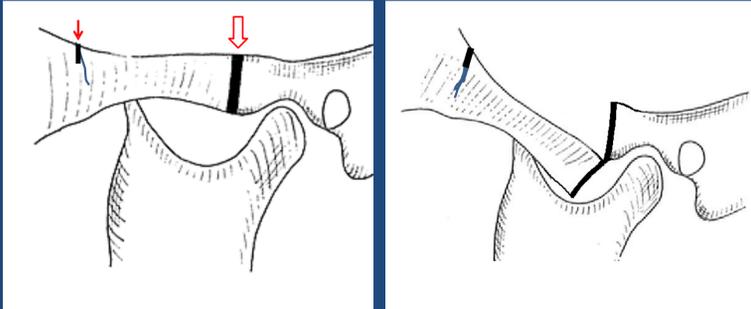
### 発表の動機および目的

顎関節脱臼に対する頬骨突起形成術は、有効かつ広く普及している。しかし本法は Leclerc 手術あるいは Dautrey 手術と呼ばれるのが一般的で、呼称の統一見解はなく混乱している。そこで両術式の相違点、奏効度、問題点について検討を行い、正当な手術名称の整理を提案したい。

### 方法

Leclerc & Girard (1943) と Gosserez, Dautrey ら (1964) の伝語論文を詳読して、各手技の相違点とポイントをまとめ、Leclerc あるいは Dautrey の名称で報告された国内外の原著論文を渉猟して問題点を提起した。

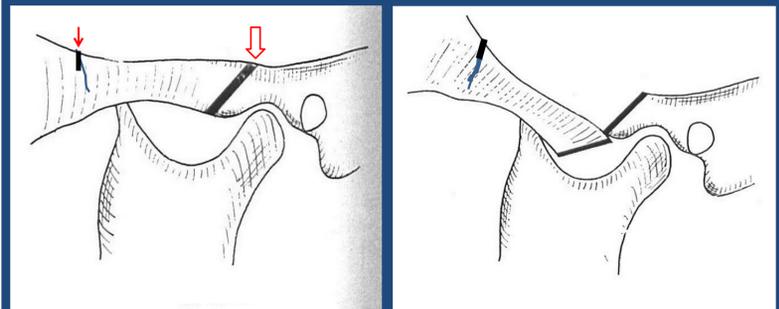
#### Leclerc手術のポイント



Leclerc & Girard : Un nouveau procédé de butée dans le traitement chirurgical de la luxation récidivante de la mâchoire inférieure. Mem Acad Chir. 69:457-459,1943

- \* 関節結節を垂直(矢印)に骨切りし、頬骨弓基部で若木骨折させる。
- \* 症例により、頬骨弓上縁に小骨切り(小矢印)を行う。
- \* 移動骨片の固定に難がある。

#### Dautrey手術のポイント

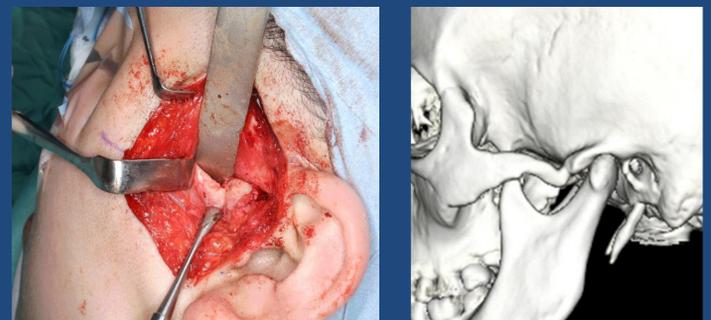


Gosserez M. & Dautrey J. et al. : Luxations temporo-maxillaires et butées arthroplastiques. Rev. Stomatol. 65:690-694,1964

- \* 関節結節を斜め方向(矢印)に骨切りし、頬骨弓基部で若木骨折させる。
- \* 症例により、頬骨弓上縁に小骨切り(小矢印)を行う。
- \* 関節結節下面に溝を形成して移動骨片の固定を行う。



**Dautrey による骨片固定法 (1)** 結節前面に 2 ~ 3mm の溝 (矢印) を形成する。  
**Dautrey による骨片固定法 (2)** 結節下面の溝 (矢印) に骨断端をはめ込み固定する。



**術中所見** 頬骨弓 Down-fracture後に形成溝に固定された。  
**術後3D-CT所見** 移動した頬骨弓は固定され関節結節が深化している。

Leclerc を題した報告群

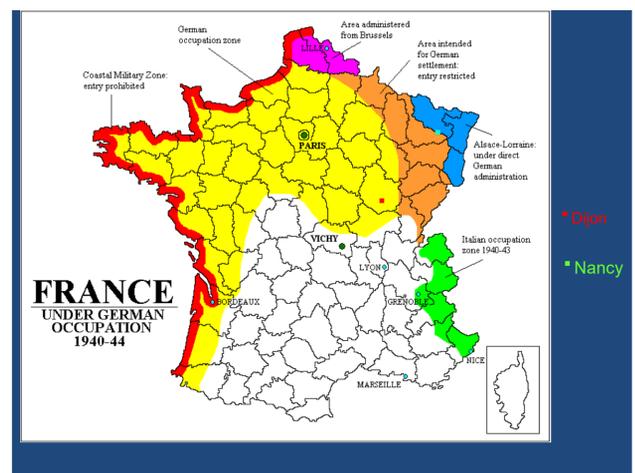
著者	雑誌	発表年	症例数	年齢	術式			経過観察(月)	成否	合併症	備考
					骨切り線	溝形成	固定				
1 藤本ら	日口外誌	1985	1	18	斜	+(症例により)	-	不明	良	なし	
2 飯塚ら	日口外誌	1985	7	17~59	斜	+(症例により)	-	19~48	良	なし	LeClerc
3 Undtら	Int J OMS	1997	9	17~64	斜	-	-	30~60	3/9再発	7/16関節Click 4/9例運動痛	
4 秋間ら	形成外科	1997	1	81	斜	上縁に溝形成	-	30	良	なし	LeClerc
5 上村ら	形成外科	1998	4	35~65	垂直(2か所)	-	ミニプレート	48	良	1/4プレートゆるみ	LeClerc
6 渡貫ら	日口診誌	2004	3	72~78	垂直	-	-	6~24	良	なし	Gilles切開、局麻
7 清原ら	日形誌	2006	1	26	垂直(2か所)	-	ミニプレート	10	良	なし	LeClerc
計			26						3/28例再発(美)89.4%		

Dautrey を題した報告群

著者	雑誌	発表年	症例数	年齢	術式			経過観察(月)	成否	合併症	備考
					骨切り線	溝形成	固定				
1 Lawlorら	Br J OMS	1982	10	19~32	斜	+	-	18~60	1/10再発	なし	Phenothiazine内服例
2 藤田ら	日口外誌	1984	2	15, 35	斜	+	-	1~12	良	なし	
3 Revington	Br J OMS	1986	1	19	斜	-	-	0.5	再発	なし	矮小下顎頭(11mm)
4 Lohら	Int J OMS	1989	1	29	斜	-	ミニプレート	20	良	なし	Eminectomy術後再発例
5 To	Br J OMS	1991	1	36	斜	-	ワイヤ(骨折)	36	骨折ワイヤ一良	片側骨折プレート	皮切実法 局麻3例
6 Srivastavaら	Int J OMS	1994	12	27~50	斜	+	2例ワイヤ	36~62	1/12再発	なし	
7 Kobayashiら	Br J OMS	2000	12	38~94	斜	-	接着剤	18~96	良	なし	
8 井上ら	日口診誌	2007	10	49~90	斜	-	ミニプレート	12~36	良	なし	
9 神谷ら	名市病院紀要	2007	1	79	斜	-	-	不明	良	なし	
10 Gadreら	J OMS	2010	20	14~60	斜	-	ミニプレート	19~60	良	1例骨折(60歳)	
計			70						3/70例再発(美)95.7%		

### 結果

- 1、Leclerc 7編、Dautrey 10編の論文を検討した。
- 2、17編の手技では、垂直の骨切りはLeclerc群の2編のみで、他は全て斜め方向であった。
- 3、骨片固定用の溝形成について、6編(Dautreyの3/10、Leclercの3/7)で行われていた。その他、ミニプレートなどが併用された。
- 4、再発はLeclerc群 3/28例、Dautrey群 3/70例で、手術成績は良好であった。



### 考察と結論

- 1、Leclerc 群、Dautrey 群ともに、ほぼ斜め方向の骨切りが用いられており、原法との間で齟齬がある。
- 2、Dautreyによる溝形成は、わずか6編で行われていたのみであった。
- 3、人名を用いた手術法を提示する場合、
  - \* 関節結節の垂直骨切り：Leclerc (法) 手術
  - \* 関節結節の斜め骨切り+結節下面の溝形成：Dautrey (法) 手術
  - \* あるいは、和名：頬骨突起形成術と表記すべきである。

### 余談

- 1、Leclerc & Girard の手術法が紹介された 1943 年、Dijon (北フランス) はドイツ占領下 (Vichy ナチス傀儡政権) で、本法のような画期的手術法が発表されたことは驚きである。
- 2、知人の パリ 13 大学 Charles De Clercq 教授に聞いた所、当時占領下政 (上図) ではあったが、パリを中心に芸術文化の自由性はある程度担保されていた様である、と。
- 3、Gosserez & Dautrey ( Nancy ) もフランス人であり、近代欧州の仏医学の高度さは敬服に値する。